

◆赤崎陽子

「[教育普及レポート] KIDS★MOMAT 2006 東京国立近代美術館のなつやすみ フィルムセンター『こども映画館2006年の夏休み』/『現代の眼』(561号、東京国立近代美術館、2006年12月1日)[報告]

◆板倉史明

「日本映画史の流れ」/中央区民カレッジ「日本映画史への新しい視点」第1回(東京国立近代美術館・中央区の共催、フィルムセンター小ホール、2006年10月24日)[講演]

「改変された結末—『彼を繞る五人の女』解説」/『最尖端民衆娯楽映画文献資料集 第7巻』(ゆまに書房、2006年6月)[論文]

「シナリオ作家として生きる—新藤兼人氏インタビュー」/『NFCニューズレター』(第66号、東京国立近代美術館フィルムセンター、2006年4月)[聞き手・構成]

「誰もいないセットに漂う人々の息づかい—丸茂孝氏インタビュー」/『NFCニューズレター』(第70号、東京国立近代美術館フィルムセンター、2006年12月)[聞き手・構成]

「『日活アクション』というジャンルの生成をとらえる」/『未来』(480号、2006年9月号)[論文]

『祇園の姉妹』等 4作品の作品解説/『第5回京都映画祭公式カタログ』(京都映画祭事務局編、2006年10月)[解説]

「アイヌ表象と時代劇映画—ナショナリズムとレイシズム」/加藤幹郎編『映画学的想像力—シネマ・スタディーズの冒険』(人文書院、2006年5月)[論文]

「映画における音のデジタル復元について—『マリヤのお雪』のノイズ・リダクション」/『NFCニューズレター』(第70号、東京国立近代美術館フィルムセンター、2006年12月)[報告]

「可燃性フィルムに見る日本映画文化史」/田中雄次編『サイレント映画とその時代』(熊本大学文学部総合人間学科、2007年3月)[論文]

◆入江良郎

「東京国立近代美術館フィルムセンターにおける情報サービス」/「専門図書館協議会関東地区協議会第2回情報サービス研究会」(東京商工会議所会議室、2006年9月6日)[講演]

「The First Movie Star in Japanese Film History」/『Journal of Film Preservation #72』(2006年11月号、国際フィルム・アーカイブ連盟)[報告]

「反町茂雄コレクション、小亀家所蔵資料—衣笠貞之助生涯資料について」/『NFCニューズレター』(第70号、東京国立近代美術館フィルムセンター、2006年12月)[解説]

「日本映画史最古のスターに関するイベント」/『尾上松之助—日本最古の映画スター“目玉の松ちゃん”のすべて』(東京国立近代美術館フィルムセンター、2007年3月)[報告]

『活動写真展覧会』について/『国立科学博物館ニュース』(第446号、国立科学博物館、2006年6月号)[解説]

◆岡島尚志

「デジタル時代の映画アーキビストが理解すべき“3つのC”という原則」/『学習情報研究』(191号・2006年7月号、学習ソフトウェア情報研究センター)[論文]

「デジタル・シフトとフィルム・アーカイブに関する国内外の論調」/『NFCニューズレター』(第68号、東京国立近代美術館フィルムセンター、2006年8月)[論文]

「National Film Center - Japan's National Film Archive」/『Osian's Cinemaya [The Asian Film Quarterly]』(Vol. 1 No. 2、2006年)[報告]

「デジタル時代の映画上映」(口頭発表は2006年9月8日)/『コミュニティシネマ/上映者ネットワーク会議2006イン北海道・報告書』(コミュニティシネマ支援センター、2007年3月)[講演]

「フィルムセンターの仕事と映画の技術」/『映画テレビ技術』(651号・2006年11月号)[論文]

「Preserving Film Heritage in Japan: Some Facts and Feats」(口頭発表は2006年11月22日)/『International Symposium and Short-term Training for Film Preservation and Restoration - Compilation of Essays』(台湾映画資料館、2006年11月)[講演]

◆岡田秀則

「アンソロジー・フィルム・アーカイヴス—ジョナス・メカスの映画保存所」/『NFCニューズレター』(第66号、東京国立近代美術館フィルムセンター、2006年4月)[報告]

「オーストラリア映画保存略史」/『NFCニューズレター』(第69号、東京国立近代美術館フィルムセンター、2006年10月)[翻訳]

「孤高の監督たち」/『ドキュメンタリー映画は語る—作家インタビューの軌跡』(山形国際ドキュメンタリー映画祭東京事務局編、未来社、2006年9月)[論文]

「小林米作のインドネシア」/『小林米作フィルムグラフィ』(小林米作フィルムグラフィを出版する会、2006年8月)[論文]

「満鉄の発信力—満鉄映画製作所」/『別冊環 満鉄とは何だったのか』(藤原書店、2006年11月)[論文]

「ぶどう月」作品解説/『NFCニューズレター』(第67号、東京国立近代美術館フィルムセンター、2006年6月)[論文]

「映画の性的魅惑」/『最尖端民衆娯楽映画文献資料集 第9巻』(ゆまに書房、2006年12月)[解説]

◆榎木 章(講演者名・筆名:とちぎあきら)

「フィルム・アーカイヴへようこそ」/「失われた映画を求めて—フィルム・アーカイヴの取り組み」(主催・会場:福岡市総合図書館、2006年7月9日)[講演]

「日本の映画保存の現状について」/「映画の復元と保存に関するワークショップ」(主催:大阪芸術大学ほか、会場:(株)IMAGICAウェスト、2006年9月4日)[講演]

FIAFサンパウロ会議報告「フィルム・アーカイブをめぐる新たな広がり」/『NFCニューズレター』(第68号、東京国立近代美術館フィルムセンター、2007年8月)[報告]